
赤ん坊の弟

昼寝日和

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤ん坊の弟

【Zマーク】

N2105M

【作者名】

昼夜日和

【あらすじ】

おおい、おおい。じつじつおいでな。

おおい、おおい。

じつちへじつちへ。

じいなんだよ。

私は夢を見ています。

「これは夢だと頭ではわかつていたけれど、頭の別の部分ではただの夢で終わらせてはいけない、と警告が発せられていました。

私は林で寝そべっています。定期的にやつてくる幸福の波にぶ厚く包み込まれ、少しも動くことが出来ずになりました。腐葉土が温かく柔らかいのです。

私は赤ん坊に囲まれていました。数えきれないほどの赤ん坊たちは皆一様にぼんやりと私を見つめています。赤ん坊に似つかわしくない、感情というものをすっぽりとビームに落としてきたような表情で、です。

私は林で赤ん坊に囲まれて寝そべっていたのであります。ふと私の弟を見つけました。死産し、性別さえもわからずじまいだつた子であります。しかしあの子が死んだ私の弟なのだとなぜかはっきりしていたのです。

定期的にやつてくる幸福の波の合間をぬつて、私は出ない声を絞りだし、弟に呼びかけました。かすれた声がおぼろに私の頭の中でも響きます。

おおい、おおい。」「ちくおいでな。

おおい、おおい。

ちくちくちく。

なんだよ。

弟はもうひん私のことを見ているのです。田が合つた、と思いま
した。でも弟は表情を変えず、やはり赤ん坊に似つかわしくない感
情のすっぽり抜け落ちたような表情のままであります。

私の動きを消失させている幸福の波が、頭の中に響く私自身の声
を連れ去っていきます。

負けじと私は、波のほこうびを見つけてはかすれた声で呼びかけ
ました。

赤ん坊たちはいつまでもいつまでも微妙にわめく私をぼんやりと
見つめていたようです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2105m/>

赤ん坊の弟

2010年10月22日09時01分発行